

事業主体名	名護市
-------	-----

令和3年度沖縄振興特定事業推進費(市町村)検証シート

事業名	「やんばるの歴史・文化」関連施設整備事業(名護漁港水産物直売所周辺地域)				担当部課名	まちなか再開発・公共交通プロジェクトチーム	
					認定市町村名	-	
広域性要件または先導性要件の該当有無	<input checked="" type="checkbox"/>	広域性要件	現年事業または繰越事業	<input checked="" type="checkbox"/>	現年事業	事業実施(予定)年度	令和元年度～令和3年度
	<input type="checkbox"/>	先導性要件		<input type="checkbox"/>	繰越事業		

事業内容	北部圏域の各観光地等の周遊性の向上及び観光消費の拡大を図ため、名護漁港内に広域観光情報発信施設を整備する。					
------	---	--	--	--	--	--

効果発現年度	<input type="checkbox"/> 当年度 <input checked="" type="checkbox"/> 後年度(令和4年度)					
--------	---	--	--	--	--	--

実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 負担 <input type="checkbox"/> その他()					
------	--	--	--	--	--	--

		R1年度	R1年度(繰越)	R3年度	R4年度	R5年度
予算額・執行額 【単位:千円】 (「補助金」+「市町村負担」ベース)	予算の状況	当初予算額	7,500	0	72,303	
		増減額	0	0	0	
		予算現額	7,500	0	72,303	
		前年度から繰越	0	7,500	0	
		翌年度へ繰越	7,500	0	0	
		計	0	7,500	72,303	
	執行済額		0	3,829	57,976	
	うち補助金充当額		0	3,063	46,381	
	不用額		0	3,671	14,327	
	執行率(%) (B/A)		-	51.1%	80.2%	
予算の状況の説明		当初の計画どおり広域観光情報発信施設の整備を行い、事業は適正に執行できた。不用額については、工事の入札減等によるものである。				

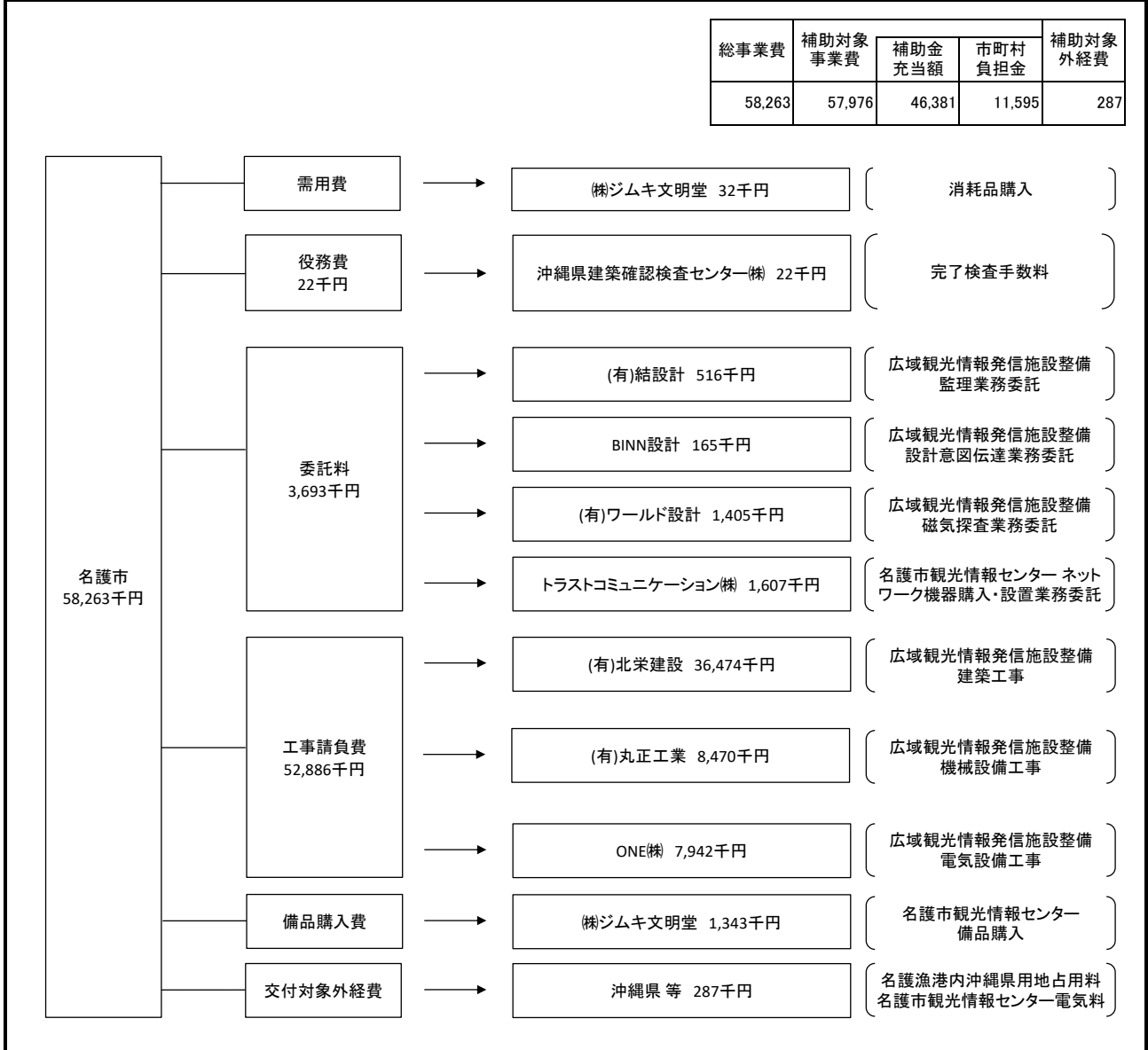
活動目標(指標)及び達成状況	活動目標(指標)	達成状況			
		R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
	多言語案内板の設置件数	目標 (1件)	(-)	(-)	()
	実績	1件	-	-	
	広域観光情報発信施設の整備	目標 (-)	(-)	(1件)	()
	実績	-	-	1件	
	トイレの拡充	目標 (-)	(-)	(1件)	()
	実績	-	-	1件	
達成状況説明	多言語案内看板の設置及び実施設計に基づき、広域観光情報発信施設工事と施設内へのトイレ拡充工事を実施した。				

成果目標(指標)及び進捗状況	成果目標(指標)	基準値(H30年度)	R2年度	R3年度	目標値(R4年度)	
		名護漁港水産物直売所・広域観光情報発信施設の来訪客数	-	(-)	(-)	(116,000)
	実績	99,409	87,883	85,371	94,419	-
	成果目標(指標)	基準値(H30年度)	R2年度	R3年度	目標値(R4年度)	
	名護漁港水産物直売所の消費額	-	(-)	(-)	(87,200,000)	(-)
	実績	69,259,160	66,549,610	63,337,814	73,354,106	-

進捗状況説明	新型コロナウイルスの影響により、令和4年度からは来客者数及び消費額は増加したものの、来客者数が当初目標設定時より下回ったことから、消費額にも影響があった。					
--------	---	--	--	--	--	--

成果目標に対する原因・要因分析		改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
取組の検証	○新型コロナウイルスの影響により、観光客が来沖できない状況が続いていた。	○那覇～名護間を結ぶ高速船の就航が令和4年4月末から開始しており、今後更なる来訪者の増加が見込まれる。 ○名護市街地周辺等を運行するコミュニティバスのバス停を名護漁港内の当施設へ設置し、施設へ来訪できる手段や高速船利用者の2次交通を確立することで、来訪者の増加につながり、水産物直売所の消費額増加が見込まれる。
	○県内のレンタカー台数にも限りがある中、那覇から北部を訪れる手段として公共交通の利用が重要となってくるが、整備した施設がある名護漁港の近隣には路線バス等のバス停がなく、公共交通機関を利用し、施設を訪れる方が少ない。	
	○昨今の物価高騰の影響により、名護漁港水産直売所の商品単価を上げざるを得ない状況となったため、消費額が思うように伸びなかった。	
今後の取り組み方針		
○市内外観光施設等の情報発信コンテンツを作成し、当施設を訪れる来訪者に配信するとともに、配布物(パンフレット等)に興味を示す仕組みづくりを行う。		
○コミュニティバスの運行開始に向け、当施設も停車地としてルートに含め、当施設へ来訪や市内を周遊させる手段を確立することにより滞在時間の増加に繋げ、名護漁港水産直売所の消費額の拡大を図る。		

資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:千円)



資金の流れ、費目・評価	評価	点検項目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	委託事業者は一般競争入札で選定しており、妥当であったと考えている。
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	積算については、3者見積により予算編成を行った。
	—	受益者との負担関係は妥当であるか。	—
	○	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	費用、用途については精算段階で検査を実施しており、目的に即し、必要なものであったと判断した。